

「第三者評価に参加して～事業者からのコメント～」

家庭的保育事業 小田 薫子

第三者評価を受けるにあたっては、参加をする必要性は感じていましたが、日々の忙しさと評価を受ける自信のなさに先送りをしてしまいました。しかし、これ以上の先送りはいけないと自分に言い聞かせ今年度、思い切って今までの保育の見直しや今後の目標になればと思い参加をしました。

評価基準に沿って職員一人一人が自己評価を行い、項目ごとに問われている内容を検討して進めていきました。自己評価の内容を話し合ううちに出来ていること、出来ていないことがはっきりと見えてきました。出来ていないところは、

- ・実践しているのに記録がない。
- ・職員全員への周知がなされていない。
- ・子どもが落ち着いて生活できる環境が定期的に見直されていない。
- ・日誌が保育に生かされていない。
- ・地域との交流が少ない。（コロナ渦のためだけでなく）などの反省点が見えてきました。

課題に取り組んでいく中で地域との交流、地域との連携はなぜ必要なのかが分かってきました。外国の方が多い当事業所では関係機関や地域の中での子育てがなさされていくことに気づいたからです。

いろいろと考えたり思い返したりしながら取り組んできましたが、評価委員の方々に適切なアドバイスを頂いて、今後もこの内容を継続していくようにと助言を頂いたことは励みになりました。

今後も子どもが安心して生活できる場所、楽しいと感じられる事業所になるよう努めていきたいと思えます。